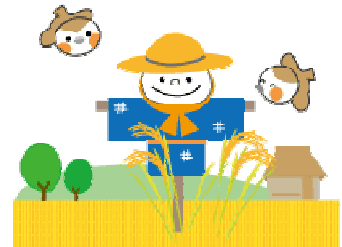


## 【気になる話題 ～動物からうつる身近な感染症について⑦～】

### 〈野生動物からうつる病気〉

都市化が進んだ昨今では、野生動物と接触する機会が少なくなりました。でも、油断しているとアウトドア活動や海外旅行で野生動物から病気に感染する危険性があります。

日本では、むかしから秋の収穫期に田畑で農作業をした後、高熱が出る病気が知られ、秋疫（あきやみ）、用水熱、七日熱（なぬかやみ）、伊万里熱、土佐熱、天竜熱などの俗称で呼ばれていました。これらは**レプトスピラ症（ワイル病）**によるもので、ネズミをはじめとする野生動物が保菌しているスピロヘータを尿中に排出し、それが素手素足による農作業で感染したと考えられます。治療には抗菌薬がもちいられます。



**エキノコックス症**は、エキノコックスという寄生虫（条虫）によるものです。この条虫は主にキツネやオオカミ、タヌキなどのイヌ科動物に寄生し、糞便に排出された虫卵が飲み水や食べ物に混入することでヒトに感染します。日本では、北海道が主な感染地域となっていますが、20世紀はじめにネズミ駆除目的で礼文島に移入したキツネから広まったと考えられています。治療法は、外科的に切除する以外にありません。生水は飲まない、野菜はよく洗って加熱する、といった予防が何よりも重要です。



**狂犬病**は、日本ではペットの予防接種が徹底されているため過去のものと思われていますが、世界の各地で感染・発症事例が報告されています。ウイルスが原因で、イヌだけでなくコウモリ、アライグマ、スカンクなど多くの野生動物からうつる危険性があります。もし、狂犬病発生地域で野生動物に咬まれたら、必ず医療機関を受診して発症前に適切な処置を受けることが大切です。発症すると、助かる見込みはないのですから。

予防策として、アウトドアでは肌を露出しない、生水を飲まないことを心がけてください。また、海外旅行の前には、検疫所やトラベルクリニックに相談するとよいでしょう。

（感染症情報センター 記）